

マリンスキー・バレエ *News*

Japan Arts Corporation www.japanarts.co.jp/

主催：朝日新聞社/ジャパン・アーツ 共催：文京シビックホール(公益財団法人文京アカデミー)11/26 後援：ロシア連邦大使館/ロシア連邦交流庁 特別協賛：野村グループ

ロシア・サンクトペテルブルク発
緊急レポート

ロバートキナの「愛の伝説」

これはもう“踊る世界遺産”だ!

白夜祭2015の舞台より

6月26日マリンスキー劇場では、ロバートキナが踊る「愛の伝説」が上演され、涙を誘うような感動を呼び起こした。女王としての凛とした威厳が、すっと前に差し出される腕や、高くと上げられる脚など、随所から感じられ、佇みだけで劇場空間全体の空気を立ててしまう。これが、ロバートキナのロバートキナたる所以。大げさに感情表現をするわけではないが、音楽を身にまとうかのような詩的な動きだけで、物語を十二分に語る。

マリンスキー・バレエで初演され、ダンサーに愛され、地元ペテルブルクの観客に愛され、大切に踊りつがれてきたこの作品が、海外公演に出されるのは今回の日本公演が初めてとなる。

ロバートキナが全身空気をかけて踊る「愛の伝説」



この白夜祭公演の後、舞臺セット小夜装は大切に保管され、日本に向けて輸送される。

舞踊の神に見え出されし舞姫

クリスティーナ・シャプラン



“踊りなしの人生は想像もできません!”



ますます輝きを放つダンサー、シャプラン。素晴らしいジュリエットにももうご期待!!

「バレエを始めたきっかけをお話いただけますでしょうか？」

小さい頃から音楽を聴いたり、踊ったり、踊っている人を見たりするのは大好きでした。競技ダンスを習ってはいましたが、クラシック・バレエを始めたのは偶然です!引越して入ったお教室に(競技ダンスのクラスがなく)クラシック・バレエのクラスしかなかったのです。レッスンにレオタードとバレエシューズを持ってくるように言われて、どういったものか判らず「赤い水着と靴下」を持って行ったくらい、バレエのことを知りませんでした!!(笑)

「今のあなたにとって、バレエはどのような存在なのでしょう？」

バレエが好きです。踊ることが大好きです。今となつては、踊りなしの人生は想像もできません。バレエは私にとって人生そのもの。私は踊ることによって生きているのです。

「ワガワノバレエ学校を卒業後、いくつかの

バレエ団でプリマとして活躍し、昨年マリンスキー劇場に入りましたが、改めてこのバレエ団の魅力を感じていただけますか？」

マリンスキー劇場には“崇拜”したくなるような特別な何かがあります。劇場に近づいただけで、すでに何か違うのです。この劇場からは“気”のようなものが出ていると思います。他の場所では感じない、特別な何かなのです。

「『愛の伝説』ではシリン役を踊っていただけますね。」

実は最初に「愛の伝説」を準備するように言われた時、ヌフネ・バナーを練習するのと同じでした。シリン役を用意するようにと言われ、正直なところ上手くできないのでは…と不安になりました。見た目も肉面的には…とは合っていないように思ったのです。しかし、シリン役に取り組み始めてすぐに、この役の深さに気がつきました。バナーの愛を生き返り、フェルハドに出会い、フェルハドに愛を生きることを選んだ。その中で葛藤し、彼女自身も成長していく—さらに自分の考えを加えることもでき、やりがいのある役だと思っています。

「日本に行ったことはありますか？」

はい。バレエ学校の日本公演で行きました。そういう意味ではダンサーとして日本の皆さんの前で本格的に踊るのは初めてです。

「日本のファンにメッセージをお願いいたします。私たちの舞台を堪能していただければ、嬉しいです。すぐに日本でお会いしましょう!楽しみにしています。」



いつだって王子さま ウラジミール・シクリャロフ



“この作品が踊れることを、神様に感謝したい——”

「今回日本で踊ってくださる「ロミオとジュリエット」はとてもドラマティックな作品ですね。どのように役作りをされますか？」

「ロミオとジュリエット」は、僕の大好きな演目です。とても僕に“近い”役で、本質的に自分に合う、とてもしっくりくる役です。この作品を踊れることを、神様に感謝したいと思います。ロミオ役に入る時に、長く考えることはありません。むしろ、その役から抜け出すのが大変で大変です。

「役を引きずってしまうのでしょうか？」

何しろドラマティックな作品ですから! 憧れ、喜び、不安、涙、怒り…本当にたくさんさまざまな感情が凝縮され、まじりあい、それを全力で演じるのですから。私は器用に、半分の方で踊るなどということは決してできません。いつも100パーセント全力投球の男なのです。終わるともうぐったり! 精神的にも、体的にも疲労困憊です。その後、精神力と体力を取り戻すに、時間がかかってしまうのです。でも、繰り返しますが、私が大好きなバレエなので、踊ることは至上の喜びです!

「『愛の伝説』はマリンスキー劇場で生まれた作品です。初演当時この作品を踊っていたダンサーが先生として指導して下さることはありますか？」

「愛の伝説」が生まれたころに活躍していたレジェンド・アブディエフさんに教えるのに行きました。そこで、役作りとそこからアドバイスしていただいたのです。フェルハドという役を、一から知り、掘り下げ、僕自身が納得できるように一緒に掘り上げていってくださる唯一の先生、先輩は、アブディエフさんだと思ったからです。そして実際、大切なことをたくさん学ぶことができました。

「バレエ学校時代から、王子になるべく育てられ、期待に応えられてきたと思います。その期待はプレッシャーでしたか？」



シクリャロフが魅せがらマティックな「ロミオ」

(笑いながら)そうですね! 決して楽な道ではありませんでした。そんな昔の苦労や嫌な思いも、今だからもう話せますし、今ではそんな境遇に感謝しています。だって、簡単ではない道を経たからこそ、今の僕があるのですから。最も、芸術の道を究めていく上で、簡単な道、易しい道はありえないでしょう。困難を克服したその延長上に今の僕があるのだと思います。

「最後に日本のファンにメッセージをお願いします。」

日本の皆さんは、ロシアのバレエを心から愛してください。とても真剣に、そして純粋な心で僕たちの舞台を見てくださいます。そんな皆さんのために、僕はすべてを出し切っています! 皆さんが、僕に100パーセントの力を出す原動力となってください。今でも忘れられないことは、前回日本で「ラ・バヤデル」を踊った時のことです。終演後、シャワーやマッサージで、僕は劇場を出るのに5時間もかかってしまいました。それでもファンの皆さんがサインを求めて待っていてくれたのです! その時の感動は、忘れられません。今年もまた秋に皆さんと会えることを、楽しみにしています。

(ウラジミール・シクリャロフ出演予定) 11/28 (土)13:00 東京文化会館「愛の伝説」11/30 (日)18:30 東京文化会館「ロミオとジュリエット」

キミン・キム

日本に行きたい! と思っています。前回、黄金の仏像(フロンズ・アイドル)役を踊ったのは素晴らしい経験でした。そして今度は主役! チラシに僕の写真も載っていて…(と、じっとチラシを見つめるキミン)

公演がとても待ち遠しいです!

アジア人としてマリンスキー・バレエ初めのフロンズ・アイドルになったキミン・キム。舞台上で登場した瞬間から、「わくわく感」(キラキラ感)と観客に与える様々なダンサーに急成長を遂げています。「深い」(深い)と観客をよめさせるほど軽いジャンプは以前から話題でしたが、感情表現もますます充実し、今回の来日公演でブレイクすること間違いなし! 注目です。

(キミン・キム出演予定) 11/26 (木)18:30 文京シビックホール「ジュリエット」12/4 (金)18:30 東京文化会館「白鳥の湖」

(クリスティーナ・シャプラン出演予定) 11/27 (金)18:30 東京文化会館「愛の伝説」11/26 (木)18:30 文京シビックホール「ジュリエット」12/2 (木)13:00 東京文化会館「ロミオとジュリエット」



マリンスキー劇場(サンクトペテルブルグ/ロシア)

今年の秋、マリンスキー・バレエが日本で披露する4演目「白鳥の湖」「ロミオとジュリエット」「愛の伝説」「ジュエルズ」を並べてみると、これらがすべて、マリンスキー劇場を思わせる生まれなかつた作品であることに思い至る。

それぞれ、作られた時代も、作曲家も振付家も異なり、上演されるまでの経緯もさまざまだが、栄華を誇ったロマノフ王朝の宮廷劇場として誕生したこの優美な劇場が「創造の源泉」であり、「芸術家たちの創作の場」となっている。

今や、バレエの代名詞とも言うべき「白鳥の湖」が上演されたのは、19世紀。美しい旋律と本格的なオーケストレーションが施されたチャイコフスキーの音楽を、マリンスキー・バレエで大活躍していたマリウス・プティパとレフ・イワノフが振付、時も国も超えて不朽の名作となった。バレエを敬愛するチャイコフスキーとプティパの共同作業によって、「白鳥の湖」と並び三大バレエ傑作と讃えられる「眠れる森の美女」「くるみ割り人形」もこのマリンスキー劇場から生まれていることを思うと、感慨深い。



「白鳥の湖」



M.プティパ

「ロミオとジュリエット」も、当時気鋭の作曲家として活躍していたプロコフィエフと、このシェイクスピアの戯曲に魅了されたラヴロフスキーが、創造に励み満ちて上演したのも、この劇場だ。印象的な音楽、ドラマティックに積み重ねられる重厚な踊りとロマンティックに語られるロミオとジュリエットのデュオ。今までにない何かを共に作り出すと日夜、創作に燃えていたのだろう。

この作品は1940年、伝説のプリマ ガリーナ・ウラーノワとコンスタンティン・セルゲエフによって上演されるやたちまち話題になった。その後マクミランやクランクなどが「ロミオとジュリエット」を振付けているが、ともにラヴロフスキー版から大きなインスピレーションを得ており、そういう意味でも、このマリンスキー劇場で生まれた「ロミ



「ロミオとジュリエット」



シラヴロフスキー



サンクトペテルブルグ「白夜祭」の会場にて。6月23日 撮影。ラヴロフスキー生誕110周年を祝い「ロミオとジュリエット」が上演された。

栄光のマリンスキー・バレエ——すべてはここから始まった。

宮廷劇場として生まれ、世界のバレエ界の頂点を極めた後、

革命や大戦中の苦難の中も芸術を愛する人々によって守られたマリンスキー劇場。

ソ連時代は国を代表する文化芸術として保護され世界各地で賞讃を受けたマリンスキー(キーロフ)・バレエ。

今も「世界の審美眼」に磨かれ続ける劇場が、ダンサーはもちろんのこと

オーケストラと共に、その総力を挙げて贈る3年ぶりの舞台。

この劇場を原点として生まれた作品ばかりが上演される今回の日本公演に、ますます期待が高まる。

オとジュリエット」こそが、このドラマティック・バレエの原点だと言える。

37年ぶりの全幕上演が大きな話題になっている「愛の伝説」も、マリンスキー(当時はキーロフ)劇場のダンサーであり、新しい何かを求めて模索していたグロゴロヴィチが、この劇場で初演した出世作。革命、戦争など大きな時代の流れの中、この劇場では多くの輝ける才能を創作に投入していったことが、いかにできる。真の劇場とは「伝統と革新」が常に両輪となって発展し続けていくものなのだろう。エキゾチックな音楽と物語を用い、つつも、姉妹の愛、恋人の愛、人々への愛、それだけの愛を真剣に貫くこととして生まれる葛藤や嫉妬を濃厚に描き出すことによって、時代や場所を超えた普遍的なものを現代の私たちに観てくれる。

最後に付け加えるならば「ジュエルズ」を振付けたバランシンも、この劇場でダンサーとして活躍した人である。「宝石」の名を持つこの作品にも、このロマノフ王朝の栄華を今なおしのぶようなマリンスキー劇場の雰囲気と、他に並ぶものはないと言われるこのマリンスキー・バレエの美意識が宿っている。



「ジュエルズ」

宝石をとるか、愛をとるか!

今年、バレエファンたちは「宝石or愛」の選択に迫られている!

「愛の伝説」が日本で上演されるのは37年ぶりのこと。マリンスキー・バレエがこの作品を海外で上演するのは初めてで、今後いくつこの作品が上演されるか...と考えれば、超々な舞台だ。さらに、「今、バランシン作品を最も素晴らしいと評されるマリンスキー・バレエが上演する「ジュエルズ」全幕も、1枚枚のステージ...というところで、超豪華。

今、伝説になるであろう舞台。どららの演出目録をチョイスする...に悩んでいる間に、良い席もなくなりつつある!

皆さん! この秋は、

宝石も、愛も両方とも選んでください!



伝統の劇場に新たな歴史を刻むマリンスキー新劇場(2013年完成)

Photograph: N.Rasina / V. Baranovskiy / A. Goultsev

MARINSKY BALLET

2015.11/26(木)~12/6(日) 東京文化会館・文京シビックホール 大ホール

最新情報をお届けいたします!
twitter @ja_ballet



ウリヤーナ ロバートキナ アリーナ ソーモフ ヴィクトリア テリオシキナ クリステイナ シャブラン オクサーナ スコリック ナタージャ パートエワ ヤナ セーリナ エカテリーナ チェブキナ フィルムル アスケロフ キム キム デニール コルスツェフ ウラジミール シクリロフ レナタヤニド ルドゲエフ アンドレイ エルマコフ コンスタンチン ズヴレフ ザンダー パリッシュ ニュー スメカロフ

演目	日程	予定キャスト	チケット料金
「ジュエルズ」(全3部) 東京公演のみ 「ジュエルズ」(全3部) フランス/イタリア/ロシア/チャイコフスキー作曲 (上演時間:約2時間30分(休憩2回含む)) Pコード441-033 Lコード35450 文京シビックホール	11/26(木) 18:30	(エメラド) ヤナ・セーリナ/アレクサンデル・セルゲエフ/ ヴィクトリア・プリョーワ/ロマン・ベリトコフ (ルビ) ナタージャ・パートエワ/キム・キム/エカテリーナ・チェブキナ (ダイヤモンド) クリステイナ・シャブラン/ティムール・アスケロフ	¥22,000 A ¥18,000 B ¥15,000 C ¥11,000 D ¥7,000 (夢倶楽部会員料金) S ¥21,000 A ¥17,000 B ¥14,000 C ¥10,000 D ¥6,300
「愛の伝説」(全3部) 東京公演のみ 「愛の伝説」(全3部) メリコフ作曲 (上演時間:約3時間(休憩2回含む)) Pコード441-034 Lコード35451 東京文化会館	11/27(金) 18:30 11/28(土) 13:00	ウリヤーナ・ロバートキナ/クリステイナ・シャブラン/ アンドレイ・エルマコフ/ニュー・スメカロフ ヴィクトリア・テリオシキナ/アリーナ・ソーモフ/ ウラジミール・シクリロフ/コンスタンチン・ズヴレフ	(特別割引チケット) 学生観(全5名のみ) ※社会人学生を除く(公演当日に25歳までの学生が対象です。※専修 ①文京シビックホール 一般価格の半額です。残席がある場合に限り、9月1日(火)10:00より バランシン・アートセンターにて電話受付を行います。当日は窓口で学生証を提示し ます。学生証をご提示いただけない場合、一般料金の差額を預金することがございますので、必 ずお持ちください。 その他の割引チケット ※シニアチケット:65歳以上の方はS席とA席を会員料金のみで受 入いただけます。※単独チケットを単独でご利用の場合、割引がございません。(本人と付き 添いの方1名まで)事前にジャン・バラン・アートセンターまでお申込み下さい。
「ロミオとジュリエット」(全3部) フロコフィエフ作曲 (上演時間:約3時間30分(休憩2回含む)) Pコード441-035 Lコード35452 東京文化会館	11/30(月) 18:30 12/1(火) 18:30 12/2(水) 13:00	アリーナ・ソーモフ/ウラジミール・シクリロフ ヴィクトリア・テリオシキナ/ザンダー・パリッシュ クリステイナ・シャブラン/ティムール・アスケロフ	
「白鳥の湖」(全3部) チャイコフスキー作曲 (上演時間:約3時間(休憩2回含む)) Pコード441-036 Lコード35453 東京文化会館	12/4(金) 18:30 12/5(土) 12:30 12/5(土) 18:30 12/6(日) 13:00	アリーナ・ソーモフ/キム・キム オクサーナ・スコリック/ザンダー・パリッシュ ウリヤーナ・ロバートキナ/デニール・コルスツェフ ヴィクトリア・テリオシキナ/ティムール・アスケロフ	完売

出演者は2015年7月6日時点の予定。詳しくは、日本公演特設サイトでご確認ください(特設サイト) <http://www.japanarts.co.jp/m2015>
病欠、怪我等の事情で変更になる場合がございます。最終出演者は当日発表とさせていただきます。公演中止の場合は返金も請求できません。チケットのキャンセルや振り替え等はお受け
いたしかねますので、あらかじめご了承ください。ご購入は当日券のご利用をお願いいたします。(前売で売切の場合、当日券はございません。)

チケットのお申込み **ジャパン・アーツびあ 03-5774-3040 www.japanarts.co.jp/**
シビックチケット 03-5803-1111 | 10:00-19:00(土・日・祝日休日も受付) | (11/26公演) シビックホール南ホール <http://bunkyo.civichall.jp/> | アクセス(入会金・会費は無料)
東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650 | チケットぴあ pia.jp/ 0570-02-9999 | イープラス eplus.jp | ローンチケット 0570-000-407